

永遠の王であるキリストが来て地を所有することと

神の奥義が完成されること

聖書：啓 10:1-7, 11:15-18

- I. 啓示録第 11 章 15 節から 18 節と第 12 章 10 節が示していることは、わたしたちがキリストを永遠の王として経験し享受することができるということです：
- A. 「世の王国は、わたしたちの主と彼のキリストの王国となった。彼は永遠にわたって王として支配される」——啓 11:15 後半：
1. 第七のラッパが吹かれる時、大患難が終わるだけでなく、この時代も終結し、神の奥義は完成されます(10:7)。そして別の時代、王国時代、千年王国が始まります。
 2. キリストが再来して、諸国民を裁いた後、この世の王国はキリストの王国となります——ダニエル 7:13-14, 2:44-45。
 3. ここで主が永遠にわたって王として支配するのは、主が千年王国と新天新地において、永遠にわたって王として支配することです——啓 22:5。
- B. 「エホバよ、あなたは永遠にいまし、あなたの御座は代々に至ります」——哀 5:19：
1. 神の永遠の存在と彼の御座は、彼の慈愛とあわれみと信実より高いのです——3:22-23。
 2. 神の慈愛とあわれみは変動することがあり得ますが、神のパーソンと彼の統治は永遠に変わりません。
 3. 新エルサレムで、神は彼のパーソンと統治において完全に明らかにされます。彼のパーソンは永遠の王であり、彼の統治は彼の永遠の揺り動かされない王国です(ヘブル 12:28, 啓 22:3)。この両者は、神が彼の民を対処することでの揺り動かされない土台です。
- II. 啓示録第 10 章 1 節から 7 節には、キリストが来て地を所有するという明確なビジョンがあります：
- A. この章においてキリストは、「もうひとりの力強い御使い」(1 節)であり、それは、第 7 章 2 節、第 8 章 3 節、第 18 章 1 節のもうひとりの御使いと同じようにです。
- B. ヨハネは、もうひとりの御使いが「天から下って来る」のを見ました——10:1a：
1. キリストは今や天から下って来つつあります。
 2. このビジョンは、キリストが依然として地に来る途上であることを暗示しています。
- C. キリストは「雲に包まれて」います——10:1b：
1. まだ彼は、第 14 章 14 節、マタイ第 24 章 30 節、第 26 章 64 節のように「雲の上に(雲に乗って)」いるではありません。
 2. 「雲の上に」いることは、公に来ることであり、「雲に包まれて」いることは、ひそかに来ることです。
 3. キリストは公にではなく、ひそかに来つつあります。ついには、啓示録第 1 章 7 節とマタイ第 24 章 30 節に述べられているように、キリストは地のすべての部族によって見られます。
 4. 啓示録第 10 章の時でさえ、キリストが来ることは依然としてひそかなものです。
 5. 彼は第 14 章まで雲に包まれています。第 14 章のとき、彼は雲の上に座し、そして彼の来ることは公になります。
 6. この事によってわたしたちが見ることができるのは、キリストが大患難の前に来るという一般的な教えが不正確であるということです。

D. 「彼の頭の上には虹があり」——10:1c：

1. この虹が示していることは、キリストが地を裁く時、来て地を所有する時、地に関して神がノアと結んだ契約をキリストが守るということです——創 9:8-17。
2. それはまた、キリストが、その周囲に虹のある御座に座している神にしたがって裁きを執行することを示しています——啓 4:2-3。
3. 啓示録は、神が地とすべての住民を裁くことを啓示しています。
4. 神の御座の周囲の虹が表徴していることは、神が契約をする神、信実な神であって、地に対する裁きを執行する時に彼の契約を守ることです。
5. 彼は再び洪水をもって人類を裁くことをせず、またすべての人類を滅ぼすこともせず、人類の一部を保って、彼の栄光のために新しい地の諸国民とならせます——21:24, 26。

E. 「彼の顔は太陽のようであり、彼の足は火の柱のようであった」——10:1d：

1. キリストは、地上の民に公に来るのが間近な時、太陽のようになるのであって、明けの明星のようになるものではありません。明けの明星は、夜明け前の最も暗い時に、主を愛し彼を待ち望む者たちに現れます。
2. 1 節の火は、神の聖を表徴します(出 19:18. ヘブル 12:29)。神の聖にしたがって、キリストは彼の裁きを地に執行します。

F. 「彼は右足を海の上に、左足を陸の上に置いた」——啓 10:2 後半：

1. キリストが足を海の上と陸の上に置くことは、それらを踏むことです。それらを踏むことは、それらを所有することです——申 11:24. ヨシュア 1:3. 詩 8:6-8。
2. これは、キリストが下って来て地を所有しようとしていることを示しています。
3. 彼だけが、神のエコノミーの巻物を開くのにふさわしく、彼だけが、地を所有する資格があります。

G. 「[彼は]獅子がほえるように大声で叫んだ」——啓 10:3 前半：

1. 獅子のほえる声が、王の激怒にたとえられています——箴 19:12. 20:2。
2. これは、キリストが地の王として、激怒を引き起こすことを示しています。

III. 「神の奥義は完成される」——啓 10:7 前半：

A. アダムからモーセまでの時代、またモーセからキリストまでの時代では、あらゆることは明らかにされ、現されて、何の奥義もありませんでした。

B. 千年王国の時代と新天新地では、あらゆることは明らかにされ、もはや奥義はありません。

C. キリストから千年王国までの時代、すなわち召会時代、恵みの時代では、あらゆることは奥義です：

1. 奥義の時代の開始であるキリストの肉体と成ることは、奥義です——Ⅰテモテ 3:16：
 - a. キリストの肉体と成ることを通して、無限の神は有限な人の中へもたらされました。
 - b. 子なる神だけでなく、神全体が肉体と成りました。このゆえに、肉体と成ったキリストは、肉体において現された神全体です。
2. キリストは神の奥義です——コロサイ 2:2：
 - a. 神は奥義です。そしてキリストは、神を表現する神の具体化として、神の奥義です。
 - b. キリストは神の奥義として、神の具体化、定義、説明です。神が行なおうとするすべては、キリストと関係があります。
 - c. キリストの中には、神たる方の全豊満が肉体のかたちをもって住んでいます。すなわち、三一の神の豊満が、肉体のかたちにおいてキリストの中に住んでいます——9 節。
3. 召会はキリストの奥義です——エペソ 3:4-6：

- a. キリストは奥義です。そして召会は、キリストを表現するキリストのからだとして、キリストの奥義です。
 - b. この奥義は神のエコノミーです。神のエコノミーは、神の具体化であるキリストを、神の選ばれた民の中へと分与して、からだを生み出し、キリストにおける神の具体化の増し加わりとならせ、神に団体的な表現を得させます。
 - c. キリストと召会は一つ霊であり、偉大な奥義です——5:32。
4. 天の王国(マタイ 13:11)、福音(エペソ 6:19)、キリストの内住(コロサイ 1:27)、奥義の時代の終わりとしての、聖徒たちの来たるべき復活と変貌(Ⅰコリント 15:51-52)は、すべて奥義です。
5. 第七のラッパが吹き鳴らされる時に、すべてこれらの奥義は全うされます。ですから、神の奥義は完成されます。